

平成29年9月26日

科学技術振興機構（JST）
Tel: 03-5214-8404(広報課)

「越境する」をテーマに「サイエンスアゴラ2017」を11月に開催 ～ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス氏の登壇決定～

ポイント

- 今年12回目を迎える、日本最大級の科学と社会のオープンフォーラムを開催。
- 人工知能（AI）との共生、SDGs、ゲノム編集など厳選された150の企画が集う。
- ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス氏が基調講演。

JST（理事長 濱口 道成）は、平成29年11月24日（金）から3日間、「サイエンスアゴラ2017」をテレコムセンタービル（東京都江東区青海2丁目5-10）などで開催します。



＜あらゆる壁を越え未来を語り合う＞

人類は今、さまざまな困難に直面しています。高齢化、貧困などの社会課題を抱える日本もその例外ではありません。その解決に向けた新たな未来は見えるでしょうか。科学者、企業、行政機関などがそれぞれの領域から抜け出し、「越境」して社会のダイナミックな変化をとらえ、共に取り組まなければ日本の明日はありません。



＜貧困撲滅と二酸化炭素排出ゼロの世界を目指すユヌス氏＞

初日の基調講演に登壇するムハマド・ユヌス氏は、2006年にノーベル平和賞を受賞した経済学者です。バングラデシュでグラミン銀行を創設、貧しい女性達を中心に無担保・低金利で少額融資を行うマイクロクレジットを生み出し、世界の貧困問題撲滅に向けた努力が高く評価されました。

ユヌス氏は、貧困ゼロ・失業ゼロ・総炭素排出量ゼロの世界の実現を目指し、「技術、若者、良い政府、ソーシャルビジネス」の力を結ぶことに尽力されています。貧困など社会の深刻な問題に目を向ける若者が、学問分野、立場、国、文化、世代の壁を越えて協力を生み出せる「問題解決の起業家」へと変わる機会を、学術界が作っていくことの重要性を語っていただく予定です。

＜ムハマド・ユヌス氏からのメッセージ＞

「みんなの知力、体力、情熱を、貧困ゼロ・失業ゼロ・総炭素排出量ゼロの世界実現に使いませんか？ 科学関係者として生きることと、この努力は両立します。一緒に働く日が来るのを楽しみにしています。」

<科学者が社会で果たす使命を問うカルナワティ氏>

同じく基調講演者であるインドネシアのガジャ・マダ大学前学長ドゥイコリタ・カルナワティ氏は、学生・教員と地域コミュニティとの協働により、自然災害に幾度も苦しめられてきた国土を深く考察した、画期的な地すべりの早期警戒システムを構築。地域の減災に貢献しました。科学者が社会の中で果たすべき使命とは何か、科学者が大学や学術という境界の内側に閉じこもることなく社会と深くつながり、従来にない価値を生み出す行動哲学を、迫力ある実例で語っていただく予定です。

<150企画でA Iとの共生、SDGs、ゲノム編集など幅広い話題を取り上げ>

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指すシンポジウムでは、日本でも深刻化する貧困やジェンダーの問題を科学技術により解消する試みや、持続可能な未来都市の実現に向けたアクションプランの議論などが予定されています。また、人工知能（AI）との共生、宇宙空間での実験、ゲノム編集による生殖医療、発達障害児への支援など、幅広い話題を取り上げ、科学技術の活用でよりよい未来づくりに挑む方々を全国および世界から迎えて、これから社会に必要とされる様々な考え方を共有します。

<中高生や若手研究者など次世代がつくるサイエンスアゴラ>

サイエンスアゴラ2017は、企画公募で「世代や立場、国を超えた視点での社会課題を取り扱う話題」から「家族向けの企画」までを広く求めました。次世代を担う若手研究者や大学生、中高生によるブースやセッションを含め、科学者との対話、シンポジウム、ワークショップや展示など、誰もが参加できる150企画を新たな審査体制の下で厳選して配置しています。

また、会場設計や案内板などは京都工芸纖維大学の学生がデザインを担当。広報用のちらしについては、同大学のほか、筑波大学の学生の支援も得るなど、世代を超えた協力体制で運営します。若手を中心とした議論の場を設けることにより、活発に交流ができる場づくりを目指しています。

<地域の企画と連携>

仙台、神戸、福岡など、全国各地の6企画と連携して、日本全国に対話・協働の場づくりを広げます。

<サイエンスアゴラ2017開催概要>

日時：平成29年11月24日（金）から26日（日）

10:00～16:00（初日は12:45～18:00）

会場：テレコムセンタービル（東京都江東区青海2丁目5-10）、シンボルプロムナード公園（東京都江東区青海1・2丁目）

ホームページURL：<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>

<添付資料>

サイエンスアゴラ2017について



<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター サイエンスアゴラ事務局

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

担当：黒田、小林、鈴木、嶋田

Tel : 03-5214-7493 Fax : 03-5214-8088 E-mail : agora@jst.go.jp

サイエンスアゴラ 2017について

「サイエンスアゴラ」は、あらゆる人に開かれた、科学と社会をつなぐ広場です。「サイエンスアゴラ 2017」では、分野、年代、性別、職業、国籍の境界を越えて多様な人たちが集い、トップ科学者との対話、市民参加の科学討論、子ども向けの理科実験などを通して、これから「社会とともにある科学」、「科学とともにある社会」のあり方を皆で考え、行動します。

新ビジョン「科学とくらし ともに語り 紡ぐ未来」

サイエンスアゴラは、今後数年かけて実現すべきビジョンを設定しています。2016年12月からの新しいビジョンは「科学とくらし ともに語り 紡ぐ未来」です。20世紀の科学技術は富や力の追求と並行して発展してきました。しかし、限りある地球資源と世界のひずみを前に、今日の科学技術には限界も見え始めています。

とくに成長社会から成熟社会へと移行し、多くの問題を抱え先行きの見えにくい今の日本では、関係者が集う場をつくり、科学と社会のこれからをともに考え、互いの考え方を尊重して未来を創っていくことが必要であり、その文化を育てていきたいと考えています。

また、ともに考え、行動するあり方は、国・地域や文化によって多様であり、日本ならではの方法を模索したいと考えています。

テーマ「越境する」

社会の新しい価値に気づき、現代の多様な問題を解決するためには、ひとつの学問分野や立場、世代の知恵だけでは十分ではありません。すでに、さまざまな壁を越えて人々の知恵を紡ごうとする動きは見え始めています。

JSTは、2016年12月からのビジョン「科学とくらし ともに語り 紡ぐ未来」を実現し、新しいイノベーションを生み出すためのひとつ的方法として「越境する」ことの重要性に注目しました。私たちひとりひとりが心豊かに生きていくために科学技術をどう取り入れていくのか、科学技術には何ができるのか、学問分野、立場、国、文化、世代の壁を越えてともに考え、明日への一步につなげる場としましょう。

<サイエンスアゴラ 2017 開催概要>

日 程： 平成29年11月24日（金）から26日（日）
10:00～16:00（初日は12:45～18:00）

場 所： テレコムセンタービル（東京都江東区青海2丁目5-10）、シンボルプロムナード公園（東京都江東区青海1・2丁目）（いずれも東京都・お台場地域）

主 催： 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

参 加 費： 無料（一部、材料費などの実費をいただく場合があります）



参加方法：当日参加自由ですが、来場の際には必ず1階総合受付にて来場者パスをお受け取りください（来場者パスをお持ちでない方はご入場いただけません）。一部、事前参加登録が必要な企画があります。各企画の事前参加登録の有無や登録方法はWEBサイトでご確認ください。

「サイエンスアゴラ」WEBサイト

<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>

共 催：日本学術会議、国立研究開発法人 理化学研究所、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、東京臨海副都心グループ、特定非営利活動法人 natural science、国立大学法人 東北大学 災害科学国際研究所、神戸市、福岡市科学館、特定非営利活動法人 产学連携推進機構、株式会社早川書房、セコム株式会社

協 力：株式会社フジテレビジョン、UDトーク、ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同会社、KIRIN、国立大学法人 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab [D-lab]

後 援：内閣府、文部科学省、経済産業省、一般社団法人 日本経済団体連合会、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会 (*2017年9月現在)

以下、「サイエンスアゴラ2017」の多様な企画の一部をご紹介します(いずれの企画も、企画タイトル・登壇者などが変更になる場合があります)。

★ 基調講演（同時通訳・日本語字幕あり）

■開催日時：11月24日（金）13：45～15：00

■開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室B

■主催：科学技術振興機構

■登壇者：

ムハマド・ユヌス (Muhammad Yunus) 氏

(2006年ノーベル平和賞受賞・グラミン銀行創設者・経済学者)



貧困ゼロ・失業ゼロ・総炭素排出量ゼロの世界の実現を目指し、「技術、若者、良い政府、ソーシャルビジネス」の力を結ぶことに尽力されています。貧困など社会の深刻な問題に目を向ける若者が、学問分野、立場、国、文化、世代の壁を越えて協力を生み出せる「問題解決の起業家」へと変わる機会を、学術界が作っていくことの重要性について語っていただく予定です。

ドウイコリタ・カルナワティ (Dwikorita Karnawati) 氏

(インドネシア ガジャ・マダ大学 前学長)



学生・教員と地域コミュニティの協働を積極的に作り出し、画期的な地すべりの早期警戒システムの構築を通じて新たな災害対策を生み出すなど、地域に密着して活動。科学者が社会の中で果たすべき使命とは何かを迫力ある実例で語ります。

★ キーノートセッション&注目企画

キーノートセッション1 「貧困×ジェンダー」

日本では6人に1人が相対的貧困にあり、ひとり親家庭、特に母子家庭でその傾向が顕著です。また、若者の貧困は未来の社会に大きな影響を与えます。国際的な最重要課題でもある貧困は科学技術によって解消できるのか、その可能性を探ります。



Center for Science Communication
科学コミュニケーションセンター

■開催日時：11月24日（金）15：15～16：30 同時通訳・日本語字幕あり

■開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室B

■主催：科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター

キーノートセッション2 「科学で持続可能な未来都市をつくろう！～SDGs達成で変わる世界～」

近未来の人々が暮らす「持続可能な都市」の実現に資する科学技術とは？ 世界人口の7割が都市に住む2050年を見据え、水・エネルギー・食糧・防災・交通などの課題解決に向けた国や産学官を越えた取り組みから議論を深めます。



■開催日時：11月24日（金）16：45～18：00 同時通訳・日本語字幕あり

■開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室B

■主催：科学技術振興機構 STI for SDGsタスクチーム

キーノートセッション3 「宇宙での生命と有機物探査：たんぽぽ計画とアストロバイオロジーの今後の展開」

国際宇宙ステーションの外側で実施された「たんぽぽ計画」。地球の微生物は宇宙で生き残れるのか、宇宙塵の成分はどういうものか。実験結果を通じて明らかになった事実とは？

■開催日時：11月25日（土）10：30～12：30 日本語字幕あり

■開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室A

■主催：国際宇宙ステーション曝露部実験たんぽぽチーム（東京薬科大学、JAXA、他）

キーノートセッション4 「人工知能（AI）との共生～人間の仕事はどう変化していくのか？～」

AIの研究者や人文社会科学系の研究者など、第一線で活躍する専門家が、人間の暮らしに最も密接なものひとつである「仕事」を中心にトークセッションを行います。AI時代を生きるために今できることを、一緒に考えてみませんか。

■開催日時：11月25日（土）13：30～15：00 日本語字幕あり

■開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室A

■主催：科学技術振興機構 戰略研究推進部

キーノートセッション5 「うちの子、少し違うかも…II ~エビデンスに基づく発達障害支援をみんなで考える~」



発達障害児とその保護者・家族などに対する、エビデンスや科学的知見に基づいた、家庭・学校・地域・行政などにおける支援のしくみや最新の取り組みを紹介。さまざまな障壁を乗り越え、改善していくための具体的方法について、分野・領域を超えて考えます。

- 開催日時：11月26日（日）10：15～12：30 日本語字幕あり
 - 開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室B
 - 主催：科学技術振興機構 社会技術研究開発センター（RISTEX）
-

キーノートセッション6 「ゲノム編集時代の生殖医療と私たち」

ゲノム編集により子の遺伝子を改変する生殖医療が可能な国がある一方、日本では法整備が進んでいません。今後、日本が進むべき方向を含め多角的に論じます。



- 開催日時：11月25日（土）13：30～15：00 日本語字幕あり
 - 開催場所：テレコムセンタービル 8F 会議室エリア 会議室B
 - 主催：日本学術会議
-

注目企画一覧

- 開幕セレモニー
11月24日（金）12：45～13：30 1F アゴラエリア アゴラステージ
- お笑い数学ネタライブ&数学大喜利チャレンジ（主催：日本お笑い数学協会）
11月24日（金）・25日（土）・26日（日）終日 1F アゴラエリア
- 復興期における被災地の課題と科学コミュニケーション（主催：ふくしまサイエンスぷらっとフォームspff）
11月25日（土）終日 1F アゴラエリア
- ドラマ「遺伝学的検査が家にやってくる！？」（主催：東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 ゲノム医学普及啓発寄附研究部門）
11月24日（金）・25日（土）・26日（日）終日 1F アゴラエリア
- Science QAm mun i c a t i o n ! （主催：北海道大学 COSTEP）
11月25日（土）・26日（日）終日 1F アゴラエリア
- 金閣寺のきらめきは漆のおかげ（主催：チーム漆サイエンス）
11月25日（土）・26日（日）終日 1F アゴラエリア
- どこへ向かうの？ビッグサイエンス（主催：高エネルギー加速器研究機構（KEK））
26日（日）10：30～12：00 4F Cエリア ミニステージ2
- 温泉と地熱発電を科学する！ 世代や国籍を超えて文化を継承するには？（主催：総合地球環境学研究所 環太平洋ネクサスプロジェクト）
24日（金）13：00～15：30 8F 会議室エリア 会議室C
- 親子でチャレンジ！ －17の世界目標を通じて地域課題をクリアしよう！－（主催：高専-長岡技大連携グローカルPJ）
26日（日）13：45～15：45 8F 会議室エリア 会議室C



★ サイエンスアゴラ 2017企画委員会・審査委員会

サイエンスアゴラ 2017企画委員会

委員長 小野 芳朗（京都工芸繊維大学 副学長、KYOTO Design Lab ラボ長）
委 員 岡田 栄造（京都工芸繊維大学 教授）
委 員 平井 康之（九州大学 芸術工学研究院 教授）
委 員 中西 忍（科学技術振興機構 日本科学未来館 事業部長）
委 員 柴田 孝博（科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター 事務局長）

サイエンスアゴラ 2017プログラム審査委員会

委員長 渡辺 美代子（科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター センター長）
委 員 東原 和成（東京大学 教授）
委 員 南澤 孝太（慶應義塾大学 准教授）
委 員 藤原 聖子（東京大学 教授）
委 員 廣常 啓一（新産業文化創出研究所 所長）
委 員 森田 由子（科学技術振興機構 日本科学未来館 科学コミュニケーション専門主任）
委 員 島津 博基（科学技術振興機構 研究開発戦略センター ユニットリーダー）

★ 2017年、サイエンスアゴラのロゴマークが変わります

2016年12月、サイエンスアゴラのビジョンが「科学とくらし ともに語り 紡ぐ未来」に刷新されたことに伴い、2006年から使用してきたロゴマークをリニューアルするプロジェクトが始動しました。サイエンスアゴラ会期中、1F アゴラエリアの特設コーナーで新しいロゴマークのデザイン候補をお披露目し、同時に、「サイエンスアゴラはあなたにとってどんな場所ですか?」というアンケートを実施します。みなさんの声をお聞かせください。

★ 昨年大人気だったタッチラリーを今年も実施します

2016年に続き、産業技術総合研究所（産総研）・科学技術振興機構（JST）コラボ企画の「タッチラリー」を実施します。タッチラリーは、紙のスタンプ帳の代わりに、非接触式IDカード『FeliCa』を埋め込んだ来場者パスを用い、各チェックポイントに設置されている専用端末に、来場者パスをタッチする方法で行います。各チェックポイントは、タッチラリーに参加する企画提供者のブースやセッション受付となります。タッチラリー参加企画は、サイエンスアゴラのプログラムなどで案内を行います。

★ 市民が積極的に参加するサイエンスアゴラ、9割以上が「また参加したい」

2016年11月に開催したサイエンスアゴラ来場者は、親子連れなどが約6割、事業者が約2割、科学者が約1割と、さまざまな立場の方々の注目を集めました。来場者アンケート（回答者数1,025）では9割以上が再度の来場を希望。来場して良かったか、の問い合わせにも9割以上が「良かった」「まあまあ良かった」と回答、高い満足度を示しています。

★ 全国6か所でサイエンスアゴラの連携企画を実施

JSTは、日本全国に対話・協働の場を広げたいと考えています。今年はサイエンスアゴラの活動に賛同し、未来とともに考える場をつくりたいと考える仲間が増えました。以下の連携企画にもぜひご注目ください。



- 2017年7月16日（日）宮城・仙台
学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2017（第11回）
(主催：特定非営利活動法人 natural science)
- 2017年10月14日（土）兵庫・神戸
「サイエンスアゴラ in KOBÉ ~科学って本当に大事？～」
(主催：神戸市)
- 2017年10月18日（水）東京・秋葉原
「サイエンスが刺激する作家の想像力、コンテンツが刺激する科学者の創造力（仮）」
(主催：特定非営利活動法人 産学連携推進機構、株式会社早川書房)
- 2017年11月16日（木）東京・霞ヶ関
「Co-Creation “共想” フォーラム～あんしんプラットフォーム構築に向けて～」
(主催：セコム／日本経済新聞社)
- 2017年11月25日（土）宮城・仙台
世界防災フォーラム前日祭 「災害に学び、未来へつなぐ」
(主催：世界防災フォーラム実行委員会)
※サイエンスアゴラ2017会場内でライブ配信決定！（13:00～15:00）
- 2018年2月3日（土）・4日（日）福岡
「このロボットがすごい in 福岡～サイエンスロボラ～」
(主催：福岡市科学館)

以上